



災害から命及び財産を守るために

いよいよ雨のシーズン、6月から10月にかけて梅雨・台風の雨季を迎え、洪水、土石流災害が危惧されます。

全国では、毎年のように豪雨による災害が発生し、尊い人命や貴重な財産が失われています。広島県でも、8年前(2014年)に広島土砂災害、4年前(2018年)には西日本豪雨、昨年は、129件の土砂災害が発生し負傷者1名、家屋被害全壊・半壊・一部損壊36戸の被害を生じるなど、土砂災害が相次いで発生しました。このように、広島県では、風水害が多いのが特徴のようです。この毘沙門台においても、土石流災害警戒区域に指定されるなど、土砂災害が、最も起こり易い災害と言えるでしょう。被害を最小限に抑え、身を守る第一歩は、災害の種類や危険な場所を知り、防災・減災に備えることが肝要です。

また、防災・減災は、自助・共助・公助がその機能を十分に発揮することが重要です。

毘沙門台では、共助の役割を担う「自分たちの地域は自分たちで守る」といった地域の防災力を向上するために、各町内会を単位に自主防災組織「自主防災会」が設立されています。また、毘沙門台学区内の各町内会自主防災会相互の連携と協力体制を確立し、災害に強い安心・安全な地域社会を実現するため、「毘沙門台学区自主防災会連合会」が設立されています。

自主防災会及び連合会では、平素から区役所、消防署、消防団、学区内の他団体、区内の他町内会・自治会の自主防災会との意見交換を行うなど、参考となる活動を取り入れ、基盤強化に努めています。また、**自主防災会及び連合会の平常の活動としては**、防災研修会・防災教室の開催、防災に関するチラシの作成・配布、防災マップの作成、防災訓練の実施、避難行動要支援者名簿(同意者リスト)の作成、防災リーダーの育成などを行っています。**災害時には**、区からの連絡に基づき毘沙門台小学校体育館に避難場所を開設し、避難者の受入れを行うほか、避難行動要支援者への連絡、町内の見回りなど安否確認を行っ

ています。被害を生じた場合は、救援救護、避難誘導など活動も必要な活動として計画されています。災害は、土砂災害以外にも、地震、風雪害、落雷等の自然災害や火災などの人災もあり、いずれにしても、**災害が発生しそうな時や発生時には、身の安全を守るために、落ち着いて素早い避難が必要です。**普段から、**避難場所・避難経路を家族で話し合うなど確認しておき、また、となり同士が声かけ合い、率先して避難をしていただくことが身を守る大切なことだ**と思います。自主防災会及び連合会では、新年度に入り、災害対応への体制の確認、備品等の点検などを行い、有事に備えることとしております。

毘沙門台学区自主防災会連合会
会長 香川 堅

我が町の自慢 ～私の被爆体験とその後～

今月号の「我が町の自慢」は、原爆の被災体験を多くの子どもたちに伝えられている毘沙門台東町内会の梶矢さんの自筆の文書をご紹介します。

生まれは広島駅近くの大須賀町であった。私が生まれた年に、ヨーロッパで第二次世界大戦が始まり、その二年後に日本もこの戦争に加わった。昭和16年(1941年)である。3年9か月にわたって続いたこの戦争、太平洋戦争といわれているが、この戦争の末期の昭和20(1945)年8月6日、世界で最初の核兵器・原子爆弾が広島に投下された。

その時私は1年生で、空襲が激しくなって臨時に設けられた分散授業所(爆心地から1,8キロ)に登校し、朝の掃除で雑巾がけをしていた。が、大型爆撃機B29のわずかな爆音を耳にしたのか外の方に目をやっていた。その時、「ピカーツ」ともの凄い閃光が一面を覆い、次の瞬間「ドーン」



令和3年7月16日
バッハオリンピック会長と

と爆風が襲ってきて一瞬に崩れかかってきた家屋の下敷きになった。なんとか自力で脱出し、目の前を長い長い列となって逃げていく被災者の列の流れの中に混じり懸命について逃げた。裸足で逃げていた…

山中腹まで逃げ延びた………広島町の全面がごうごうと燃え上がって行くのを見た。夕刻になって火が衰えを見せ始め、避難していた人びとも山を下り始めた。私もついて下り、もし両親や姉が生き残っていればその辺りにいると思われる、今の広島駅北面一帯(当時の東練兵場)に逃れて来ている何千という被災者の中を捜しさまよった。………被災者の「みずをくれえ」、「ミズヲクダサイ」の声は今も忘れられない。

…戦後の食う物もないような日々、学校も校舎は焼けて無く、運動場にごさを敷いて勉強をする、いわゆる「青空教室」の時もあった。母は、大怪我だったが生き残ってくれた。家族は、戦後を力を合わせて耐え抜き、生き抜いた。

私は退職後、被爆体験証言活動を続けている。年間、70～80回ぐらいになるうか。



平成29年
青年俳優「三浦春馬さん」
を自宅にお迎えして

昨年はオリンピック聖火ランナーになることができた。平和公園を訪れられたバウハオリンピック会長とも面会し対話し、グータッチでお別れするような機会もいただいた。かって、若手俳優の三浦春馬さんが毘沙門台のこの家まで来てくれたこともあった。

今も、広島を中心街を臨むこともできるこの地で、地域の方々の暖かさや恵まれた環境の中で日々を生きさせてもらっている。感謝!である。

毘沙門台東町内会
梶矢文昭



令和3年6月1日
聖火ランナーに。右は日本柔道金メダル第1号中谷さん

緊急時に役立つ「救急医療情報キット」

「救急医療情報キット」というのをご存知ですか？

(平成24年から開始し現時点で124名の方にご利用いただいています。
この度あらためてご案内します。)

これは、一人暮らしの高齢者が救急車などで運ばれたときに必要となる個人情報をもとに、場所が分かりやすい冷蔵庫内に保管しておくシステムです。

治療に際して必要な情報が、スムーズに救急隊や医療機関に伝えられるため、救急医療を受けるときに有効なシステムです。

65歳以上のお一人住まいの方には無料でお使いいただけます。二人住まいの方には300円をご負担いただきます。

社協役員、町内会役員、民生委員の方にお申し込みください。



中に入っている
情報は常に最新
にしてください

冷蔵庫内に保管してください



玄関に入ってすぐ見えるところに
貼付してください



冷蔵庫の扉に貼付してください